

「第55回 東京同窓会_総会・懇親会」 振返り

2022年-第2回合同幹事会 ～Zoom開催

所感_第55回同窓会を終えて

・コロナ禍で先行き不透明な中、またスタート当初から総会・懇親会当日に至るまで44回生同期の人員が少ない中、森本総会指導委員長、戸田広報委員長をはじめ幹事会や諸先輩・後輩に援助をいただきながら、なんとか実行委員の務めを終えることができた。

・テーマ「紡ぐ～前へ Society44」は、各事案の検討や活動の基軸となり、コロナ禍で準備を進めるにあたりよいテーマであったと思う。

「会報あがた」について

(良かった点)

紙面構成を含め、サッカースペシャル対談、幅広い年代の同窓生からの寄稿など中身の濃い会報になった。会員からは「良い刺激になる」「大変充実して中身あり、これからも活躍している同窓生を紹介してほしい」などのメッセージが寄せられた・

(反省点、その他)

広報担当に作成負担が集中してしまい、実行委員メンバーが少人数ではあったにせよ、適切な役割分担ができなかった。

年明け1/15会報キックオフミーティングからの広告集め・入稿までの日程が若干タイトであったため、もう少し早い段階で開催できればその後の準備にも余裕が持てると感じた。

総会・懇親会について

コロナ禍で開催すること自体への賛否両論、いざ現地開催としたところではたして収支に見合うだけの参加人数が見込めるか、アルカディアとの会場調整、感染防止への配慮や仮に定員オーバーした際のサブ会場検討、少人数の実行委員メンバー（その後人数が増えなかった場合）で当日切り盛りできるかなど、多くの懸念事項があったが、対面での懇親に意味があるとの思いから「久しぶりに会うことにこだわりたい」を終始の合言葉に、現地・対面方式での開催とした。

その際、Zoomオンライン参加者を広く募るか否かについては、参加者が多くなった場合のスムーズな画面切り替え操作への懸念から、Zoom接続は松本44回生同期のみとした。

（良かった点）

73回生が大勢参加してくれたことで、多世代が参集し会場の雰囲気華やいた。

コロナ禍でなるべくアルカディアスタッフの移動が伴わないよう、当初、食事は弁当タイプ（個人盛りスタイル）も検討したが、雰囲気も考慮し洋食/正賓スタイルにし、参加者からは好評だったと感じる。

T V松本の協力を得て事前収録した松本同窓会会長と校長先生のメッセージは企画としてよかったと思う。

（反省点）

当日、アルカディア側の音響機器と実行委員サイドの機器接続がスムーズにいかない場面があり、タイムスケジュールに遅れが生じた。

参加ハガキ等で寄せられたメッセージを懇親会の場で発表する予定だったが今回懇親会ではその時間がなく割愛した。同窓会や母校へ寄せられた応援メッセージ等については、（懇親会の場に限らず）広く公表する場があってもよいと思う。